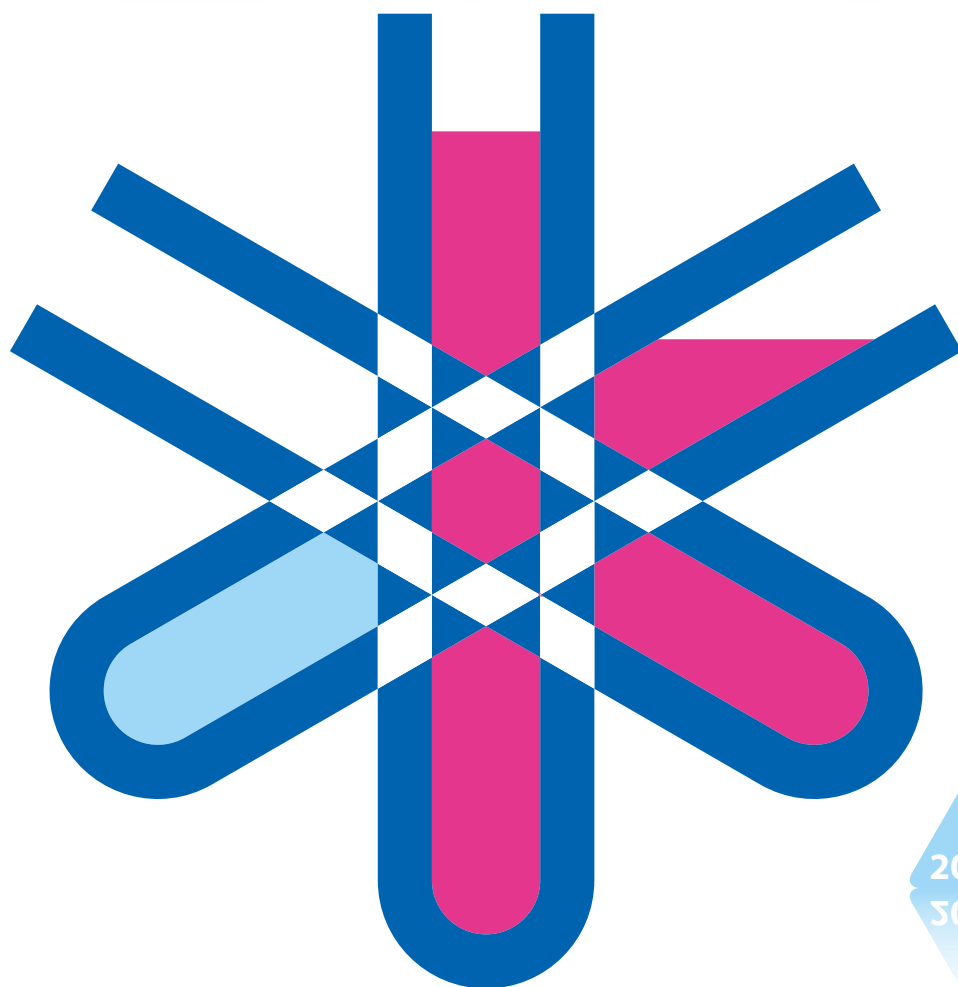


横査情報月報



2026
505e

1
2

横浜市衛生研究所

令和8年1月号 目次

【検査結果】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和7年5月～10月）	1
魚介類中のPCB検査結果（令和7年度）	4
農産物の残留農薬検査結果（令和7年10～11月）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年12月）	7
------------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和7年12月）	8
-----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和7年5月～10月）

当所では、横浜市蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として、市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります（表1）。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておく必要があります。

令和7年の蚊成虫捕獲調査は、市内の蚊種類相の把握を目的としたライトトラップ法と、ヤブカ属の捕獲を目的とした^{ひとひとり}人囿法により行いました。ライトトラップ法は、ドライアイス^{ひとひとり}を誘引剤として用いた電池式ライトトラップ（CDC型：写真1）を16公園（17か所）に設置、捕虫網を用いた^{ひとひとり}人囿法は、山下公園で行いました（図1、表2）。また、蚊類の捕獲は、（公社）神奈川県ペストコントロール協会に委託しました。

捕獲された蚊類は、衛生研究所に搬入され、調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、オルソフラビウイルス属（デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス）及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。ここでは、これらの調査結果について報告します。

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の主な媒介蚊	主な感染環
デング熱		ヒト→蚊→ヒト
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		ヒト→蚊→ヒト
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト

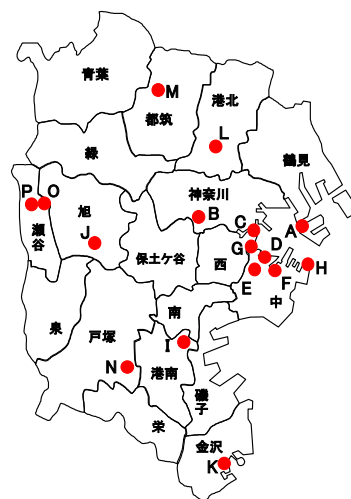


図1 蚊成虫捕獲調査地点

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点
鶴見	大黒ふ頭中央公園 (A)	中	新港中央広場 (G)	都筑	都筑中央公園 (M)
神奈川	三ツ沢公園 (B)		シンボルタワー (H)	戸塚	舞岡公園 (N)
西	臨港パーク (C) *1	港南	久良岐公園 (I)	瀬谷	瀬谷市民の森 (O)
中	山下公園 (D) *2	旭	こども自然公園 (J)		細谷戸公園 (P)
	横浜公園 (E)	金沢	海の公園 (K)		
	港の見える丘公園 (F)	港北	新横浜駅前公園 (L)		

*1:2 か所（北・南）実施

*2:ライトトラップ法と人囿法を実施

〈ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査を16公園(17か所)、各12回延べ204回実施し、結果を表3に示しました。捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、8属14種7,383個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ5,034個体(68.2%)でした(写真2)。次いで、アカイエカ群が1,964個体(26.6%)、キンパナガハシカが166個体(2.2%)、ヤマトヤブカが76個体(1.0%)捕獲されました。

表3 ライトトラップ法による蚊の種類と総捕獲数(17か所、各12回:延べ204回)

属	種	捕獲数			(%)
		雌	雄	合計	
イエカ属	アカイエカ群*3	1,937	27	1,964	(26.6)
	コガタアカイエカ	26	1	27	(0.4)
	カラツイエカ	33	0	33	(0.4)
	ミナミハマダライエカ	1	0	1	
	クシヒゲカ亜属	8	1	9	
カクイカ属	トラフカクイカ	2	0	2	
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	4,391	643	5,034	(68.2)
	ヤマトヤブカ	75	1	76	(1.0)
	コガタキンイロヤブカ	1	0	1	
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	32	0	32	(0.4)
ハマダラカ属	シナハマダラカ	1	0	1	
ナガハシカ属	キンパナガハシカ	142	24	166	(2.2)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	8	0	8	
チビカ属	フタクロホシチビカ	0	7	7	
不明(破損を含む)		19	3	22	
合 計		6,676	707	7,383	

*3:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。



写真1 CDC型ライトトラップ



写真2 ヒトスジシマカ雌成虫

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、臨港パーク1(北)の1,160個体で、次いで、細谷戸公園が842個体、新横浜駅前公園が634個体でした。種類別にみると、ヒトスジシマカは、臨港パーク1(北)で1,018個体と最も多く、次いで細谷戸公園が755個体でした。アカイエカ群は、大黒ふ頭中央公園で356個体と最も多く、次いでシンボルタワーが322個体でした。

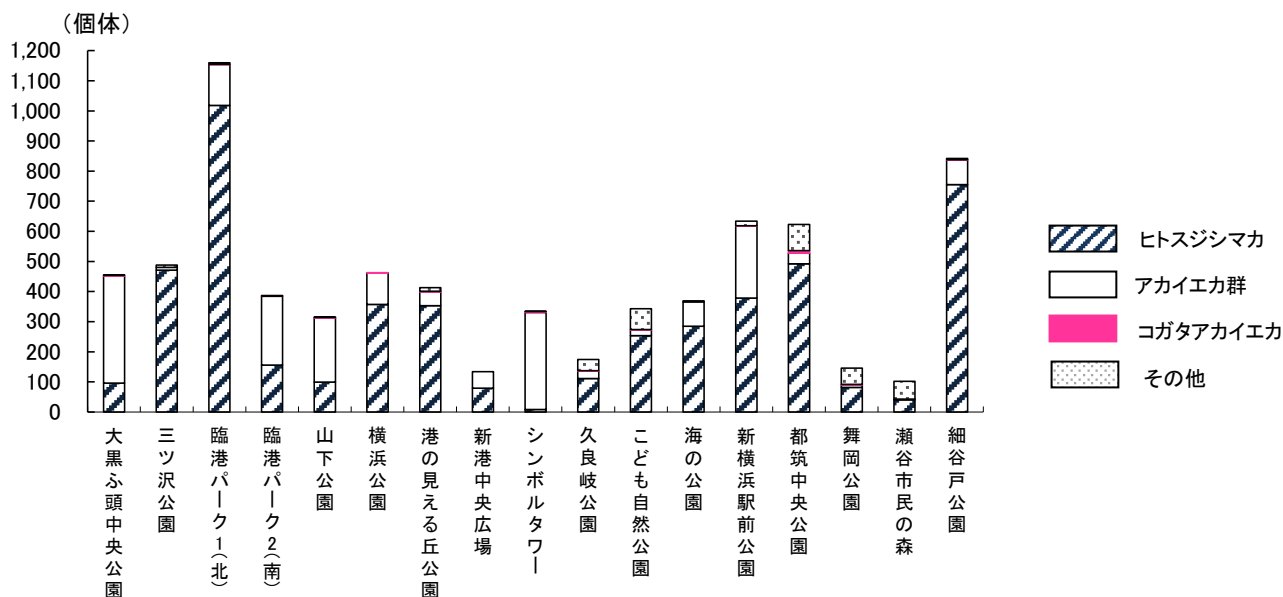


図2 調査地点別の蚊捕獲数

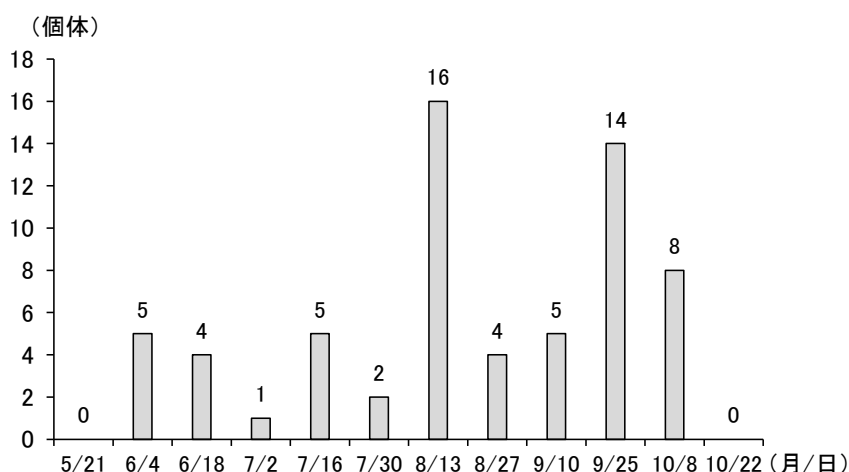
ひとひとり 〈人 囀 法によるヒトスジシマカ成虫捕獲調査: 山下公園〉

山下公園3定点において(図3)、人 囀 法(写真3)による蚊成虫捕獲調査を各12回(延べ36回)実施しました。捕獲されたヒトスジシマカは、雌成虫が64個体、雄成虫が35個体、合計99個体でした。



ひとひとり 〈人 囀 法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長: 山下公園〉

人 囀 法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の消長(3定点の合計捕獲数)を図4に示しました。ヒトスジシマカ雌成虫は、初回の5月21日は捕獲されず、7月30日までは1～5個体と少数でした。8月13日は16個体と最も多く、8月27日は4個体、9月10日は5個体と減少しました。さらに、9月25日は14個体、10月8日は8個体と再増加しましたが、最終回の10月22日は捕獲されませんでした。



ひとひとり
図4 人 囀 法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長(山下公園)



ひとひとり
写真3 人 囀 法

〈ウイルス検査〉

ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫6,676個体、人 囀 法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫64個体について、オルソフラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ウェブページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ウェブページ: 感染症発生状況資料集>病原体情報>横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】

魚介類中のPCB検査結果（令和7年度）

ポリ塩化ビフェニル(以下、PCB)は生態系の食物連鎖を通じて魚介類に蓄積され、これを食べることによる健康への影響が懸念されています。厚生労働省では、PCBについて暫定的規制値を設定し、食品への汚染を防止し、既にある汚染を減らすための行政上の指標としています。

当所では横浜市内に流通する魚介類についてPCBの検査を行っています。令和7年5月及び10月に中央卸売市場本場で収去した魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表に示すとおりクロムツ1検体から0.01ppm、マアジ1検体から0.02ppmのPCBを検出しましたが、暫定的規制値を超えるものはありませんでした。

表 PCBの検査結果

食品の種類		検体数	検出件数	結果	暫定的規制値
遠洋沖合魚介類	コウイカ	1	0	不検出	0.5ppm
	ババガレイ	1	0	不検出	
	ヒラメ	1	0	不検出	
	マサバ	1	0	不検出	
内海内湾魚介類	カンパチ	1	0	不検出	3ppm
	クロムツ	1	1	0.01ppm	
	シログチ	1	0	不検出	
	チダイ	2	0	不検出	
	マアジ	1	1	0.02ppm	
計		10	2		

(検出限界:0.01ppm)

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

農産物の残留農薬検査結果(令和7年10月～11月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和7年10月～11月に医療局食品専門監視班が収去した国内産農産物の検査結果を報告します。

国内産農産物については、10月になす4検体、さつまいも3検体、小豆、柿、キャベツ、米、さといも、とうがん、ばれいしょ及びりんご各1検体の計15検体、11月にさつまいも3検体、かぶの根、キャベツ、さといも、しゅんぎく、大根の根、とうがん及びなす各1検体の計10検体、合計で25検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。なす及びりんご各1検体から延べ5項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 国内産農産物の残留農薬検査結果

(令和7年10月～11月)

農産物	検 査 検体数	農薬検出 検 体 数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
小豆	1	0			
柿	1	0			
かぶの根	1	0			
キャベツ	2	0			
米(玄米)	1	0			
さつまいも	6	0			
さといも	2	0			
しゅんぎく	1	0			
大根の根	1	0			
とうがん	2	0			
なす	5	1	クロチアニジン	0.03	1
ばれいしょ	1	0			
りんご	1	1	シペルメトリン	0.20	2
			アセタミプリド	0.03	2
			ボスカリド	0.03	2
			チアクロプリド	0.02	2

注) 中括弧()は同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物							農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						
		A	B	C	D	E	F	G			A	B	C	D	E	F	G
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	○	－	○	－	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○
DDT(DDE、DDD、DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	○	○	エンドリン	0.005	○	－	－	－	－	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	－	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	○	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	－	○	○	○	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
アルドリノ及びディルドリン	0.005	○	－	○	－	○	－	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	－	○	○	○	○	－	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○	○	○									

表2 (続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物							農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						
		A	B	C	D	E	F	G			A	B	C	D	E	F	G
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	○
クロクスロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	○	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシ種を含む)	0.005	○	—	○	—	○	—	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ベルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	—	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○	○	○
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	—	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	—
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	—	○	○	—
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ビリダベン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ビリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ビリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ビリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
ビリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	—	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ルフエヌロン	0.01	○	○	○	○	○	○	○
フィプロニル	0.002	○	○	○	○	○	—	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○	○	○									
フェントロチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	○									

農産物の種類 A:しゅんぎく B:かぶの根、キャベツ、とうがん、なす C:さつまいも、さといも、ばれいしょ
D:大根の根 E:柿、りんご F:米 G:小豆

○:実施、—:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年12月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和7年12月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和7年12月に追加・更新した主な記事は、2件でした。

掲載月日	内容
12月15日	感染症に気をつけよう(12月号)
12月24日	令和4年度協会けんぽ神奈川支部加入者(横浜市在住)の健診データ業種別

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

令和4年度協会けんぽ神奈川支部加入者(横浜市在住)の健診データ業種別

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/ekigaku/kenkoekigaku.html>

ソーシャルメディア

https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和7年12月)

委員会開催日(2025年12月25日)時点のデータになります。

《今月のトピックス》

- インフルエンザは4週連続で減少していますが、流行警報は発令中です。
- 感染性胃腸炎が増加傾向です。
- 梅毒は幅広い年齢層で患者の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象 <2025年11月24日～12月21日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	10件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
つつが虫病	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	7件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	21件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件	百日咳	40件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2件		

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10 歳代～70 歳代で、O 血清群は O157 が 4 件、O26 が 1 件、O103 が 1 件、O126 が 1 件、O 不明が 3 件です。経口感染と推定される報告が 3 件、感染経路等不明の報告が 7 件です。
2. **E 型肝炎**:50 歳代で、感染経路は経口感染と推定されます。
3. **つつが虫病**:40 歳代で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されます。
4. **レジオネラ症**:50 歳代～90 歳代で、肺炎型が 6 件、ポンティアック熱型が1件です。感染経路等は水系感染と推定される報告が 5 件、水系感染・塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が 1 件です。
5. **アメーバ赤痢**:60 歳代で、感染経路等は経口感染と推定されます。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70 歳代で、感染経路等はその他と推定されています。
7. **クロイツフェルト・ヤコブ病**:いずれも 70 歳代で、病型は古典型 CJD です。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40 歳代～80 歳代で、血清型は A 群が2件、G 群が1件です。創傷感染と推定される報告が 1 件、感染経路等不明の報告が 2 件です。
9. **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:いずれも 30 歳代で、感染経路は性的接触(異性間 1 件、同性間 1 件、詳細不明 1 件)と推定されています。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:60 歳代で(ワクチン接種歴不明)、感染経路等は不明です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:30 歳代～80 歳代(ワクチン接種歴無 4 件、不明 3 件)で、感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が 2 件、感染経路等不明の報告が 5 件です。
12. **梅毒**:10 歳代～80 歳代で、早期顕症梅毒 I 期 6 件、早期顕症梅毒 II 期 7 件、無症状病原体保有者が 8 件です。性的接触による感染と推定される報告が 20 件(異性間 16 件、同性間 1 件、詳細不明 3 件)、感染経路等不明の報告が 1 件です。
13. **百日咳**:10 歳未満～80 歳代(ワクチン接種歴 4 回 14 件、2 回 1 件、無 4 件、不明 21 件)で、家族内感染と推定される報告が 8 件、周囲の流行と推定される報告が 4 件、感染経路等不明の報告が 28 件です。

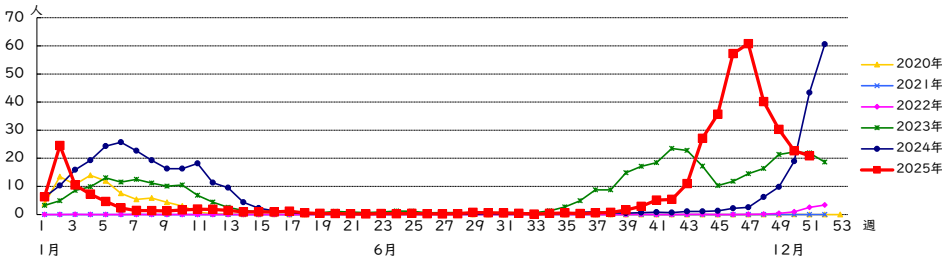
◇ 定点把握の対象

※ 2025 年第 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降、小児科定点は 94→51、
内科定点は 59→39 医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2025年第48週	11月24日～11月30日
第49週	12月 1日～12月 7日
第50週	12月 8日～12月14日
第51週	12月15日～12月21日

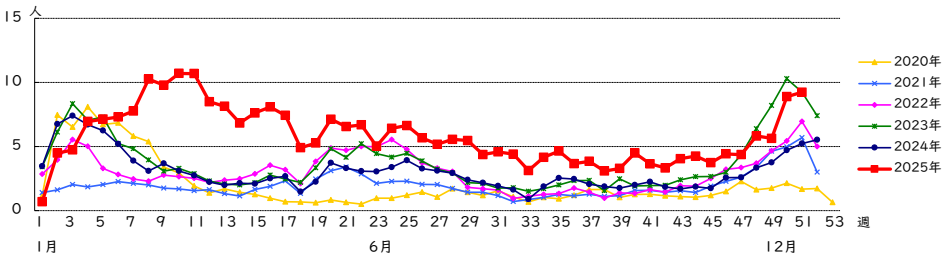
1 インフルエンザ

第37 週(9 月 8 日～9 月 14 日)以降増加が続き、第 43 週(10 月 20 日～10 月 26 日、定点あたり 10.95)に流行注意報発令基準(10.00)を、第 45 週に 35.63 で、流行警報発令基準(30.00)を超えました。その後増加が続き、第 47 週には 60.78 となり、報告数が昨シーズンのピークを超えました。以降減少傾向が続き、第 51 週は 20.89 です。



2 感染性胃腸炎

第 46 週以降増加傾向が続き、第 51 週は 9.22 です。



3 性感染症(2025 年 11 月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:16件	女性: 9件
尖圭コンジローマ	男性:21件	女性: 3件	淋菌感染症	男性: 7件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.00	1.25	0.25	1.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2025年11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	19件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症) 定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院) 定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院) 定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2025 年第 48 週～第 51 週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症) 定点 104 件、基幹定点 1 件、定点外医療機関1件でした。

1月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離 24 株と遺伝子 64 件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025 年第 48 週～第 51 週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	発 熱
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	－ 3		
インフルエンザウイルス AH3	20 11	3 3	1 2
インフルエンザウイルス A (亜型未同定)	－ 14	－ 3	
ライノウイルス	－ 6	－ 3	
ライノウイルスまたはエンテロウイルス	－ 9		－ 1
パラインフルエンザウイルス 1型	－ 1		
パラインフルエンザウイルス 2型	－ 1		
ヒトメタニューモウイルス	－ 1		
アデノウイルス 2型	－ 1		
アデノウイルス 5型	－ 1		
アデノウイルス 型未同定	－ 3	－ 1	
合 計	20 51	3 10	1 3

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2025 年第 48 週～第 51 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 9 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 件、薬剤耐性エロモナスの精査 2 件でした。

基幹定点からの検査依頼はサルモネラ症 2 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症 3 件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎 6 件、感染性胃腸炎 1 件、「ARI 定点」から 3 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025 年第 48 週～第 51 週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症		9	O157:H7 VT1 VT2	(2)
				O157:H7 VT2	(1)
				O26:H11 VT1	(1)
				O26:H11 VT2	(1)
				O126:H- VT1	(1)
				O166:Hg15 VT2	(1)
				OUT VT1	(1)
				OUT VT2	(1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		2	A群溶血性レンサ球菌 TUT	(1)
				G群溶血性レンサ球菌	(1)
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		2	Aeromonas sp.	(1)	
			Klebsiella pneumoniae	(1)	
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	Haemophilus influenzae	(1)	
薬剤耐性エロモナス 精査		2	Aeromonas sp.	(2)	
基幹定点	サルモネラ症	2	Salmonella Schwarzengrund	(1)	
			Salmonella O4群 (4:i:-)	(1)	

分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		レジオネラ症	3	喀痰	Legionella pneumophila SG1 (1) レジオネラ属菌 培養陰性 (2)

小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	A群溶血性レンサ球菌 T1	(1)
				A群溶血性レンサ球菌 T4	(2)
				A群溶血性レンサ球菌 TB3264	(1)
				A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	(2)
	便	感染性胃腸炎	1	Campylobacter coli	(1)

ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	百日咳菌遺伝子 肺炎マイコプラズマ遺伝子 溶血性レンサ球菌 培養 百日咳菌培養	陰性 陰性 陰性 陰性 (3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】